

環境分野推進戦略に関する主たる論点
(いただいたご意見から抽出したもの)

資料2

I. 環境分野における研究開発を阻害する問題点のうち、
特に主要なものは何か？

- 個別研究が十分に統合・連携されていないこと。環境研究全般についての「設計図」がないこと。
- 省際的に組織された統合的研究体制で行われている研究プログラムがないこと。
- 基盤的研究が不十分なこと。知的研究基盤が十分に整備されていないこと。
- 社会科学系の環境研究が十分でないこと。自然科学系環境研究との十分な連携が行われていないこと。
- 時々の環境問題に対応した必要な人材のタイムリーな供給が不足していること。
- 地球観測等の分野において国際的な取り組みに対するわが国の対応が十分ではないこと。

Ⅱ. 取り組むべき環境研究について過不足はないか？

以下の項目は適当か？

1. 近年クローズアップされている環境問題に関する研究

- ①地球環境研究: 人類の生存基盤や自然生態系に係わる地球変動予測とその社会経済等への影響並びに地球温暖化対策のための科学技術
- ②循環型社会構築研究: 循環型社会の実現に寄与する科学技術
- ③有害化学物質研究: 化学物質のリスクを極小化及び評価・管理するための科学技術

2. 自然と共生した持続的な発展を支える研究

- ①水・土壌環境保全研究: 健全な水循環を実現するための科学技術
- ②生物多様性保全研究: 生物の多様性を保全するための科学技術
- ③都市環境研究: 健康・安全・快適な都市環境を保全・創出するための科学技術

3. さまざまな主体や諸外国の環境保全に向けた取組を支援する研究

- ①発展途上国環境保全支援研究: 諸外国、とくに途上国における環境保全の取組みを支援するための科学技術
- ②環境保全普及・啓発支援研究: 企業や消費者の環境保全努力、国民の環境教育や環境学習に資する科学技術

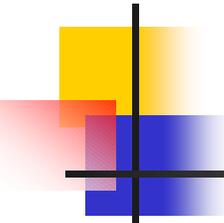
4. 長期的な継続性が求められる共通的、横断的、基盤的な研究

- ①社会システム研究: 環境政策学、環境経済学、環境倫理学等の社会システムとかかわる研究領域
- ②知的基盤型研究: 環境標準物質・環境試料・環境生物資材等の確保・整備等、環境分野の基盤的な研究領域

Ⅲ. 重点化するときの4つの柱

下記の4分野を環境分野における研究開発の柱としてはどうか？

- 地球環境研究
- 循環型社会構築研究
- 有害化学物質研究
- 自然共生型社会構築研究
(豊かな水といきもの、きれいな大気にかこまれた自然共生型社会の実現にむけての研究)



問題点「省際的に組織された統合的研究体制で行われている研究プログラムがないこと」をいかに解決するか？

IV. 統合化され、重点化された研究プログラムを提案することは必要か？
もし必要だとすれば、それはどのようなものか？

省庁毎の取り組みを統合した政府全体としての一つの目標を目指す統合化プログラム(仮称)を創設できないか？

※統合化プログラムの範囲や推進体制については、各省との協議もふまえて検討が必要。

統合化プログラムの例

地球環境研究

- 地球温暖化
- オゾン層破壊
- 酸性雨
- 海洋汚染
- ・
- ・
- ・

→ 統合化プログラム(例)

地球温暖化防止
プログラム

有害化学物質研究

- リスク評価
- リスク削減
- リスクコミュニケーション
- ・
- ・

→ 統合化プログラム(例)

化学物質総合管理
プログラム

自然共生型社会構築研究

- 都市環境保全
- 水・土壌環境保全
- 大気環境保全
- 生物多様性保全
- ・
- ・

→ 統合化プログラム(例)

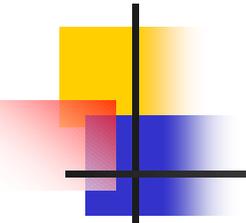
自然共生型流域圏
再生プログラム

循環型社会構築研究

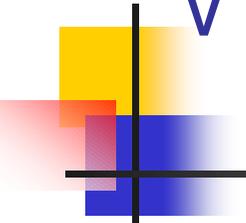
- 要素技術
 - リデュース技術
 - リユース技術
 - リサイクル技術
 - 廃棄物処理技術
- 廃棄物問題
 - 海洋投棄
 - 最終処分地問題
 - 都市ゴミ

→ 統合化プログラム(例)

循環型社会構築
プログラム



平成14年度において重点的に
取り組むイニシアティブ（仮称）
は何か？



V. 環境研究を継続的に、着実にすすめていくためには何が必要か？

いただいたご意見を推進戦略(案)に反映した事務局案を作成し、次回に議論予定

- 育成・確保すべき人材及びその方策
- 投入すべき研究費の種別
(競争的資金、プロジェクト等)
- 必要とされる施設、設備
- 整備すべき知的研究基盤
- 環境研究にグランドデザインを与える方策